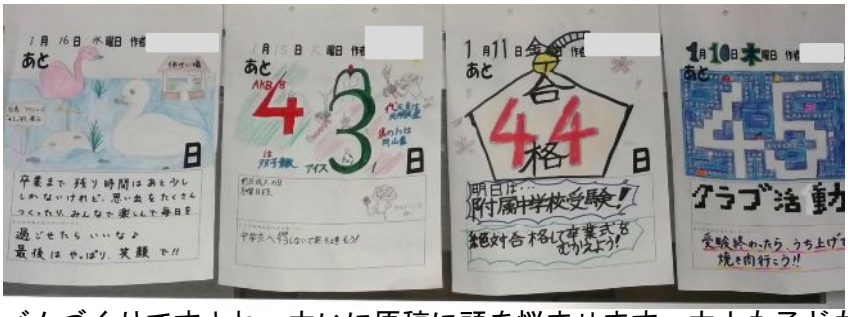
２月学習会のご案内

平成２５年１月３１日

卒業アルバムの原稿。



どこの学校でもそろそろ卒業の日に向けてカウントダウンをはじめているのではないでしょうか。わがクラスでもカウントダウンカレンダーを作成して一日一日を大切に過ごしております。卒業前といえば，卒業アルバムづくりですよね。大いに原稿に頭を悩ませます。大人も子どもも。

岡大附属小では半ページの原稿を書くのですが，国語の授業の中で書いております。テーマに沿って作品を書きます。今年は「将来の自分」に決まりました。モデルとなるような作品との出会いの機会もつくりながら推敲段階を終え，子どもたちの作品は今，完成へと漕ぎ着けてきています。相手意識や目的意識などが今までの作品とは大きく異なるのでおもしろいです。「未来の自分が振り返られるように」なんて視点が入ってくると，子どもの心に大きな火が付くのがわかります。モデルを導入時と下書き完成時の２回のタイミングで与えるのも子どもが作品を見直す意欲付けになることが改めてよくわかりました。今までの構成を捨てて再構成しようとする姿が多くの子どもに見られたのは，やはり卒業アルバムという特別な作品にかける思いの表れなのかな，と感じました。

さて本校の場合，教員も子どもと同じ文章量で作品を書かねばなりません。卒業に向けて子どもたちに贈る言葉なんてそんなにたくさんあるものではありません。みんな伝えたい言葉の中から珠玉（？）の一言を伝えようと考えますよね。ただ，私は本校で４回目の６年生担任です。兄弟関係もあるしなあ……比べたら同じだったなんて子どもの立場からして見れば許せないなあ……なんて考え出すと，何が何でも違うことを書いてやろう！と思ってしまい，悩みながら自分も書き上げました。今年にふさわしい内容になったぞと思いつつも，さすがに次は転勤先でないと書くネタがないなあ，なんて思っています。将来私がまた本校で６年生の担任をすることになっていたら，笑ってやってください。

日　時　　平成２５年２月２３日（土）９：３０～１２：００（通常モードです！）
場　所　　岡山大学教育学部附属小学校　２階　会議室
　　TEL(086)272-0511　　FAX(086)271-3455
連絡先　　小野　桂（おの　けい）　keikeioh@fuzoku.okayama-u.ac.jp（学校パソコン）
内　容　　説明的な文章の学習展開について　「天気を予想する」（５年　光村図書）
　　今度こそ完結編です。
　　２次からの授業展開やふさわしい指導方法を明らかにしましょう。

＜お知らせ＞
「おもしろ見つけ」の本を，附属小でお取り扱いしております！来られる前に冊数をご連絡ください。代金引換となります。（特価！）多くの方に手にとっていただけるように，みなさん！宣伝活動をがんばりましょう！

1月の学習会の報告（文責　近藤昌子）

１月の語る会は「子どもの学び合いを大切にした授業づくり」という視点で，４年生の物語「三つのお願い」をどう授業するかについて，岡大附属小の小出真規先生にレポート発表をしていただき，それを元に話し合いをしました。

＜小出先生の実践より＞

～他者のことばをもとに新たな問いをもち追求することを通して，
実生活に活きる読み方を身に付ける国語科の授業づくり～

単元名

「友達を大切に思う気持ちはどう変わったのかな」中心教材「三つのお願い」
補助教材「いちばんの願いごと」など

単元目標

ノービィやビクターの会話文や行動描写，一人称視点，ストーリー展開などに着目すると，気持ちの変化や深まりがよくわかるという読み方を身につけることができる。

会話文や行動描写，一人称視点，ストーリー展開などに着目する読み方を使って読み，身近で普段は気がつかないような大切なものについての考えを深めようとする。

本単元における「ことばの学び」の姿

「お願いは本当に叶うのかな」「互いに相手を大切に思っているな」といった疑問や感銘をもとに，ママの言葉によって思いが深まるといった因果の論理関係をおさえながら，「ノービィの気持ちが変わった原因はママの言葉」などの論理的な言葉で表すことで，そばにいる友達の大切さに気付くノービィの気持ちの変容をとらえることができる。　＜対象をとらえることば＞

ノービィやビクターの気持ちについての自分の考えを友達に示して意見を求めたり，友達の考えに対する賛同や反対を話型やなるほどマークなどを用いて説明したりして，自他の考えのよさを互いに取り入れて高め合うことができる。　＜他者とつながることば＞

三つの願いごとを通してノービィが友達の大切さについて思いを深めたことを，「理由を考えた」といった論理的な言葉や「意外な結末のストーリー」といった読み方を表す言葉で振り返り，論理や読み方，友達の考えのよさを取り入れた有用性を見直したり，身近にある大切なもののすばらしさが語られる物語を，ストーリー展開に気をつけて読むという見通しをもったりすることができる。　＜自己を見つめることば＞

単元構想

第１次 １，２時	「三つのお願い」を読み，感想を交流し，物語全体から，お願いの内容や二人の関係を確かめていく見通しをもつ
○題名読みや登場人物の確認から，ノービィ，ビクター，お願いについて感想が書けそうだという見通しをもつ ○感想を交流すると，ノービィとビクターが互いを大切に思っている，けんかをしているといったことや，お願いがかなうという物語のおもしろさに感想が集まっていることが確かめられる。そして，次の３つのことをめあてにして，全文からそれを順に確かめていくという学習課題をもつ ・ビクターのノービィに対する気持ち ・ノービィのビクターに対する気持ち ・お願いはうまくいったのか	
第２次 １時	ビクターのノービィを思う気持ちを確かめる
○本時のめあてを確認する ・教室内の掲示した３つのめあてや前時の振り返りから，最初の学習課題を確認する 「ビクターのノービィを思う気持ちを確かめる」 ・黒板には全文を掲示し，数人に発表させ，どの場面にみんなの感想が集まっているか確認し，自	

分の考えをもつ見通しをもつことができる。 ○全文から自分の考えをもつ ・全文を掲載したワークシートへ書き込みをすることで自分の考えをもつ。 ・サイドラインをひく，理由を書き込むなどして自分の考えを明らかにする ○話し合う ・ペアで考えを交流の後，全体で交流する。 ≪共有された踏み台となることば≫ ・けんかもしているけど，ビクターはノービィを大切にしているということが確かめられてきたところで，『ノービィは大切な友達なのに「変だぜ」とか「変なゼノビア」と言うのは言い過ぎではないか』と問いかけ，踏み台となることば≪ノービィにも信じて欲しかった≫があらわれるようにする。 ≪問いの顕在化≫ ・そこから発問で「ビクターはノービィに何を信じて欲しかったのか」と問うことで，≪ビクターはノービィに何を願って欲しかったのだろうか≫という新たな問いを顕在化させて話し合う。 ○本時のまとめ ・「ビクターは，レナに女優になる夢を願ってほしかった。でもレナがそうしないので，つい怒ってしまった。ビクターってやっぱりレナのことを大切に思っているな」	
２ 時	ノービィのビクターを思う気持ちを確かめる
本時案を参照	
３ 時	三つのお願いがうまくいったのか確かめる
○本時のめあてを確認する 「三つのお願いがうまくいったのか確かめる」 ○全文から自分の考えをもつ ○話し合う ≪共有された踏み台となることば≫ ・３つの願いについてそれぞれ考えが交流できてきたところで「うまくいったのはどの願いか」と問いかけ，共有された踏み台となることば≪３つ目の願いはうまくいっている≫があらわれるようにする。 ≪問いの顕在化≫ ・そこから発問で「２つ失敗して，３つ目の願いだけ成功したということは，結局，何もかわっていないんじゃないのか。」と問うことで，≪最後の願いだけでよかったのだろうか≫という新たな問いを顕在化させて話し合う。 ○本時のまとめ ・「二つ目までの願いで失敗していたから，三つ目のお願いで友達の大切さに気がつくことができた。三つの願いがつながっていて，ノービィのビクターに対する思いが深くなっている。」	
第 ３ 次 １～３時	「みっつのねがいごと」，「いちばんの願いごと」を読み，感想をもとに願いごとをつなげて読み，最後に気づいた大切なものについて話し合う

本単元における指導の工夫

他者とのかかわりのよって高まる対象の姿

まず，子どもは自分なりに学習課題に取り組んで考えをもつ。それを友達と伝え合う中で，互いに感じたことや考えたことを「踏み台となることば」として共有する。そして，その「踏み台となることば」をもとに，子どもが再び対象へかかわっていき，感じたこと考えたことがより高まっていくようにする。このように「対象」→「他者」→「対象」と双方向的に行き来する中で，対象を感じ考える力が高まり，対象をとらえることばが広がっていくように授業を組み立てた。

問いの顕在化

国語科においては，友達との交流の中で生まれた上記の「共有された踏み台となることば」をもとに，子どもが新たな問いを顕在化させて，それを追究し，さらなる感動を深めていく道筋を描いた。友達との交流の中で生まれた新たな問いを顕在化させ明確にした上で，子どもが再度，対象へかかわり話し合うことで，より深い感動が味わえるようにした。

丸ごと読み

本実践では，子どもが最初にもった直観を大きく３つの層としてとらえ，教材文全体からそれらを順に確かめていく「丸ごと読み」のスタイルをとった。本教材文の特性としては，同年齢程度の登場人物の気持ちについてのイメージがもちやすい，３つのお願いの連続性に

よる物語のおもしろさがあるといったことがあげられる。そうした特性と子どもの実態とを合わせて考えた時「丸ごと読み」による授業が本単元のねらいを達成していく上では有力な方法の一つであると考え実践を行った。

本時について

本時の目標	ノービィの会話文や一人称視点に着目すると，ビクターに対する気持ちの変化や深まりがよくわかるという読み方を身に付けることができる。　（読み方）

学習活動	指導上の留意点と「ことばの学び」の姿
１本時のめあてをつかむ。	１　前時はビクターの会話文や行動描写から気持ちが読めたことを想起させ，本時はノービィの会話文や行動描写を選んだりつないだりしたらよさそうだという見通しをもちやすくする。
めあて　ノービィのビクターを思う気持ちを確かめよう	
２自分の考えをもつ。	２(1)　教師が本文をなぞるのに合わせ,考えがもてそうな所に挙手させることで，相手を思う気持ちに目を向けやすくする。 (2)　ワークシートに記入している様子を見取り，ノービィがどう思っているか話しかけることで，気持ちをイメージしやすくする。
３もった考えをもとに話し合う。	３(1)　ペアでワークシートをもとに意見交換をする際には，賛同や違和感などをマークや感想を書き込むなどして示すようにさせることで，自分と友達の考えを比べて聞こうとしやすくする。 (2)　仲がいいけどけんかもしているということが話題になってきたところで，「結局，どちらなのか」と話題を提示して話し合わせ，ノービィの気持ちについての考えを出し合いやすくする。
「他者とつながることば」の姿　**共有された踏み台となることば** Ｃ１　「ついてきてもらう，親友だからね」とあるので，**大切な友達**だと思っている。 Ｃ２　さびしくて悲しくなっているので，やっぱりビクターは**親友**で大切に思っている。	
	(3)　ノービィのビクターに対する気持ちが明らかになってきたところで，「ノービィは最初からビクターのことを親友だと思っていたのではないか」という話題を取り上げることで，ママの言葉をきっかけにビクターへの気持ちがどう変わったのか考えやすくする。 (4)　黒板にノービィのビクターに対する気持ちがどう変わったのかとそのきっかけとなる事件を図に整理して位置付けることで，気持ちの変容ぶりの大きさとその原因を書き表しやすくする。
深まった「対象をとらえることば」の姿 Ｔ　ノービィは最初からビクターのことを親友だと思っていたのではないか？　【発問】 Ｃ　そうだけど，最後の場面では，その気持ちがもっと大きくなっているんじゃないかな。 Ｔ　最初とは違うということ？ノービィの気持ちはどう変わったのだろう。　【問いの顕在化】 Ｃ　ママの言葉でビクターのことを思い返し，やっぱり自分にとっていちばん大切なのはビクターだと思った。だから，最後に本当にビクターに帰ってきて欲しいと願った。	
４本時のまとめをする。	４(1)　板書をもとにノービィの気持ちの変容をたどることで，いちばん大切なのは友達（ビクター）だと改めて思い直したノービィの気持ちが読み深められた道筋に気付きやすくする。

	(2)　感想と考え方を分けて書く振り返りの欄を用意することで，ノービィの気持ちの変容や考えの道筋を書き表しやすくする。

考察

＜成果＞

ペアで個々の読みを伝え合い，全体交流から生まれた新たな問いを追求していくという道筋は示せた。子どもの読みが深まっていく様子は見て頂けたのではないか。

深めていく場面の板書については，子ども発言をもとに構造化して示すことができた。振り返りの際に，どのような考え方（論理）で読んだかが子どもにわかるように示すことができたのではないかと考える。

＜課題＞

地の文がノービィの１人称視点によって描かれている作品であり，子どもにとってはノービィの気持ちや言動が理解しやすかったと思われる。一方で，ビクターの視点に立って読むという点では，若干読みづらさを感じる子がいたことは否めない。この作品の大きな特長の一つである１人称視点を活かしつつ，ノービィの気持ちの浮き沈みや変化をコインの願いごとにからめて描いてあるおもしろさを読み味わっていくには，２次１時を減らして２層での丸ごと読み，あるいは２次１時のめあてをノービィの人となりについて確かめるということに変えるといったことも十分検討できよう。また場面に分けて読むということも同様である。今後においても子どもの実態に合わせてどのような授業を構想していくかじっくりと検討していきたい。

＜話し合いの中心について＞

①二次２時の本時案を中心に，踏み台となることば，発問，先生が方向付けをして読み深める「問いの顕在化」についての提案について

②丸ごと読みの三つの課題について，ビクターの視点で読む課題は子どもが考えやすいものであったか。一次の子どもの直観はこれでよいか。

話し合いの結果

グループ１

〇単元の構成について

・三次を見通すと妥当な流れ

・一人称で語られた文章→ビクター視点には難しさがある。
二人の仲のよさ，あるいはけんかを取り上げて読み深める際にビクターのレナに対する思いを取り上げることも可能ではないか。

・三次で取り上げたい意図によるが，レナの変容を読むならば三つのお願いから読むこともできる。

〇丸ごと読みについて

・変化がよく分かる。「なかよしを見つけよう」で場面ごとに取り組み，レナの親友に対する意識の変　化を読む実践もあった。

グループ２

〇問いの顕在化と残り１０分の違いについて

・今まで…先生が引き上げたいものを発問で切り込む
問いの顕在化…何人かの子どもが引っかかったものを全体にもっていく。そのため子どもが引っかかりそうな所をいくつか想定しておいてそれに応じた発問や顕在化をする。

〇単元の流れ

・一人称視点→ノービィの再認識が読めたらよいのではないか。三つの願い→ノービィの順で読む。

・三つの願いをはじめに読むと，三つの願いのおもしろさは読めても大切なものは身近にあるという価値に向かいにくくなる。

・視点に響く子ども→内言の思考を外言として伝える際にことばの網を通る→お互いが理解するためのことばの網をどう育てればよいか

グループ３

〇ビクターのノービィへの思いの根拠について

・ビクターの行動→とてもやさしくてノービィのため

・子どもの意識が想定までいくのか？ ビクターはレナのことを思っているまでで十分ではないか。

・けんかの会話→信じてくれないから→何を信じてほしかったの→願いが叶うこと→何を願ってほし

かったの？のところで反応は悪くなかったが，子どもの意識として読み深めるのは難しかったのかもしれない。みんなが納得する叙述は弱い。展開として課題が残る。

〇三つの層で読む

・層が絡み合う必要がある。ビクターの読みがノービィの読みに絡み，前の層がまたお願いに絡むことが必要。

小出先生

〇一次の様子について

・三つの願いや登場人物に触れた後，ノービィ・ビクター・お願いの３つの視点をもたせて初めの感想を書いた。それを集約して３つの学習課題を作った。

（例）ノービィはビクターが親友と思っている，ビクターはノービィにやさしい，お願い事がかなうって不思議，最後は幸せになっているななど

赤木先生より

〇光村の新教材

・「わたしはおねえさん」（２年）「のどがかわいた」（５年）「だってだってのおばあさん」（１年）は等身大の自分が映し出せる教材。

現場の先生→「ごんぎつね」「一つの花」「白いぼうし」といった教材も位置付き文学教材のラインナップに意味がある。

文学者の方→国語で読まないといけないの？世界で一番薄い国語の教科書に必要か？

折り合い→子どもは多様なものを読む必要があるのではないか。

〇この教材をどう読み取らせるか

・うまくいく方策ははじめからあるわけではない。法則にしてはいけない。

・ノービィの変化を強く読み取らせたいのであればどうすると一番気付きが大きくなるか，ノービィとビクターの関わりを読み取らせたいのならどう組み立てていけばよいか。

→直観の整理の仕方や重み付けが変わってくる。

・３つの願いから「うまくいったのか」から読むと，一つ目と三つ目はこう違う→ノービィの変化にはいくがビクターにはいかない。

二人の絡みもノービィの成長も読みたいとなれば今回の提案も一つの道。

これだけの文章量を問題解決の過程を通って一時間単位で進む展開に無理はない。

・一つ目の課題

ビクターのことを読む→無理があるのなら「なかよし」から中心をビクターに置くこともできる。

自由に発表する中で，きちんと確認しておくもの…踏み台になることば

「変だぜ」の何が変なのか，言い方，が話題になれば二人でキッチンに入ってこっそり話をした状況を捉えたとき，「女優になる夢を願ってほしかった」という読みもあってもよい。

・二つ目の課題

ノービィの変化→前の層とのつながりははっきりしないが別物ではない。

「変だぜ」の中身とレナの「これはちょっと考えなくちゃ」「信じたりするあなたとは違う」「お願いを無駄にしちゃった」信じているのに信じてないふり→前の層ともつながる

「親友だからね」と「さびしいよもどってきてくれないかな」との違いを問いの顕在化にもってくれば，ノービィに変化はあるのかを子どもに説明させればよい。

〇残り１０分

・鋭く読みを深めさせる→子どもが自分はこう読んでいるということを説明するのが大切。説明したくなるようなことを問いとしてもってくる。

こう読みましょう，と先生が高く読ませることを考えるより，子どもが説明できる最終を考えればよいのではないか。

〇丸ごと読みの展開

答えは一つではなく，視点の決め方，課題の順番でも変わってくるのが国語のおもしろさ。

理科では実験の順番を変えるわけにはいかない。実験に工夫を加えてより納得しやすいように，安全に子どもに任せてできるように考える。

何をめあてや課題にするのか，組み立て方をどうするのか自由度がある。

子どもにつけたい力や経験させたい力も軽重がついてくる

→パターンを作りにくいことに意味がある。